

麻生区区民会議 第16回専門部会 市民活動・絆づくり部会 議事要旨

1 開催日時：平成30年2月15日（木）午前10時～12時

2 開催場所：麻生区役所 第5会議室

3 出席者：[専門部会委員] 植木昌昭委員、緒方保委員、海崎真委員、佐野幸子委員、鈴木隆広委員（部会長）、関根秀勝委員、高橋慶子委員（副部会長）、松田通委員（欠席）佐藤昇平委員

[事務局] 企画課 安藤課長、福島係長、榎本 [コンサルタント] 中島、永野

4 傍聴者：0名

5 議 題：

1. 調査・審議課題の検討について

(1) 前回の審議内容の振り返り

・『市民活動・絆づくり部会』における前回の審議内容を振り返った。

(2) 区民会議フォーラムの振り返り

【今後の方向性】

・委員の意見をもとに、報告書、提言の内容を具体化していくこととした。

【主な意見】

- ・市民活動団体を知ってもらえたことができたと感じた。静かなブースと賑やかなブースがあったが、イベント全体としては静（静かなブース、プレゼン）と動の部分（賑やかなブース、パフォーマンス）があるため、静の時間も必要。静と動が共存するような場の作り方の工夫が必要であると感じた。
- ・場の設定をもう少し考えるべきだった。様々な団体を1つの部屋に集めるは厳しかった。また、開催者側の趣旨を参加者が認識していないと感じたが、継続的に開催することで参加者も趣旨を理解できるのではないかと。
- ・団体との事前の話し合いが足りなかった。イベントの設計についてはそれぞれの団体ともっと詰めるべきである。
- ・1回目としては良かった。アンケートにはお金に関する指摘が見られたため、事前に一部有料であることを示した方が良かったのかもしれない。アンケート結果を見ると、楽しかったという感想は多かったため、それが積み重なれば市民活動に参加する方も増えるのではないかと同時に、継続していく責任もあるのではないかと。
- ・参加団体同士の連携については、フォーラム当日は難しいため、交流会のような工夫が必要。パフォーマンスに関して賛否あるようだが、盛り上がりという点で必要であり、継続が大事。

- ・それぞれ独自の目的を持っている団体を一堂に集めたこと、時間が足りなかったことで、団体の交流ができなかった。会場規模、時間、費用の点が課題ではないか。
- ・継続性がイメージできたことは良かった。アンケートを書く場所を設置したこと等、設営も良かった。パフォーマンスは大変に盛り上がったが、否定的な団体もおられるため、時間設定を考える必要があるかもしれない。若い世代が万福寺のマンションのあたりから大勢いらしたように感じ、「親子で体感」というコンセプトが非常に素晴らしかった。
- ・イベントは人が集まることが大事。300人も集まった事実だけで成功と言えるのではないか。課題も浮かび上がってきているので、提言へとつなげていけば良い。
- ・今回のイベント設計で、検証内容①～④までは有効性を検証できたのではないか。継続性を持ち、課題をクリアしていけば⑤以降も良くなるのではないか。
- ・活動内容と活動への想いを発表してもらうためのプレゼン時間が短すぎたことは反省点である。イベントの実行方法が今後の課題である。

(3) 報告書・提言骨子の検討

【今後の方向性】

- ・活動参加へのきっかけ作りとなるイベント等の開催について、今後は組織のあり方、市民と行政の協働のあり方、他のイベントとの折り合い、協力の可能性など、具体的な提言とするための検討を継続することとした。

【主な意見】

- ・「活動を始めたいと思ったか」の部分にもアンケートの検証内容を加えるべき。活動を「始めたい」が11.3%であったということは、1回目としては妥当ではないか。参加者が300名と多かったという事実への評価も行って良いのではないか。
- ・「普通」と回答した50.5%をどう評価するか。どちらでもないと捉えられるのではないか。
- ・潜在的な担い手がいることがわかったという内容を報告書に記載してはどうか。
- ・今回のキックオフイベントは、子育て世代を中心にイベントを行ったが、全区民を対象としていることを忘れてはいけない。フォーラムだけの提言ではなく、担い手づくりのサイクルを上手く回すための提言が必要となる。
- ・的を絞ったイベントに挑戦し、それなりの結果を得たわけであるから、的を絞ったイベントは趣旨が明確になり、参加者にとってもわかりやすく有効であることがわかった。
- ・テーマを絞ったイベントは団体間のつながりを深くし、絆づくりにつながるという特徴があるかもしれない。
- ・部会の目的としては、区民の方が地域の担い手の一人であると認識してもらうことである。この点、多くの方が興味を示してくれたという結果は、普段活動に参加していない人がイベントに参加する機会があれば、身近に感じてもらえるのではないかという検証が有効だったと評価できる。
- ・継続性を担保する提言とするのであれば、子育てフェスタや福祉まつりとの関わり合い、既存のイベントとの協力のあり方を検討する必要があるのではないか。
- ・市民が実行委員会等を立ち上げ、行政は予算面や見守りの形で協働してもらう流れが考えられるのではないか。

- ・今後のあるべき姿を提言に盛り込むべきではないか。

(4) 全体会議の資料について

- ・全体会の資料の確認を行い、概ね合意を得た。
- ・詳細な修正については、部会長、副部会長、事務局に一任することの承認を得た。

【主な意見】

- ・楽しんでもらうというような「～してもらう」という表現が気になる。
- ・表現については、目線が異なるだけで問題視しなくても良いのではないか。

(5) 区民会議ニュース5号について

- ・3月発行になるため、今後事務局で案を作成し、メール等で委員に配信することの了承を得た。

2. その他

- ・次回は3月22日（木）に開催することを伝達した。

以 上